

教育センター通信

ほど 火床の火の心を紡ぐ

第2号（通算第33号）
平成28年9月5日
三条市小中一貫教育推進課
教育センター 発行



わくわく科学フェスティバル
(8月10日 栄体育館)

「生きる力を磨く地域コミュニティの創造に貢献する小中一貫教育」

小中一貫教育推進課長 高橋 誠一郎

先日、30年の長きに渡り民生委員児童委員・主任児童委員、保護司を務めあげられたAさんとお話をさせていただく機会がありました。Aさんは、今年度をもって保護司をご退任されるにあたり、わざわざ教育委員会へごあいさつをされにお越しくださったのです。本当に嬉しく感じると同時にその丁寧なご対応に深く感銘を受けました。

その面談の中でAさんはこれからの小中一貫教育について、このようにお話をされました。

「俺は歳をとってしまっただけ、これからの人はいいね。三条市は小中一貫の新しい学校と地域コミュニティが一緒になってもっともっと活気と賑わいのある楽しい学区をつくるんだろうからね。それを楽しみにしたいね。やっぱり子どもは色々な年代層と一緒に生活したり活動したりしないとね。それが一番の成長の糧だよね。」

「その昔、子どもたちは好むと好まざるとに関わらず、幅広い年代層と日常生活を共にしていく中で、社会性を身につけることができた。」とよく言われます。「しかし、どうも気がついたらそれがなくなっている世の中になっていた。」そんな感想を述べられる方々も少なからずおられると思います。Aさんはそのことを念頭に、小中一貫教育の更なる発展に期待をされておられるのだろうと思います。長年、地域の活性化に力を尽くし、多くの子ども一人一人に寄り添い、励ましながら地域の中で子どもたちの様子を見続けてきたAさんの言葉はとても重く感じました。

三条市教育委員会は、平成29年度の併設型小学校・中学校としての学園体制、平成30年度のコミュニティ・スクール化と義務教育学校の設置を進めています。これはまさに子どもたちが生き生きと未来の地域を創造するための基盤となるものだと確信します。

小中一貫教育は、校長先生方のリーダーシップの下、教職員の皆様の不断の努力とご尽力、並びに保護者、地域の方々のご理解とご協力のおかげで、子どもたちの健やかな成長のために大きな成果を上げています。地域コミュニティの活性化とその中でさらに生きる力を磨き上げることができる子どもたちの未来の環境整備のために、お取組の継続と発展を切にお願いいたします。

第1回hyper-QU研修会（8月1日：リサーチコア）

今年度もQU創始者である河村茂雄早稲田大学教授を講師に迎え、標記の研修会を開催しました。毎年、受講者の先生方から大変好評の研修で、今年度も200名近い多くの先生方から受講いただきました。

平成25年度から毎年開催し4回目となる今回は、「hyper-QUを活用した児童生徒支援と学級づくり—小中—貫教育を軸にして—」と題して、ご講演いただきました。

QUプロット図をもとに、4人グループで行った事例研修では、小・中両校種の教員が入り、和やかな雰囲気の中、活発な検討が行われました。

小・中学校のそれぞれの指導に対する考え方をもとに、様々な意見交換がなされ、三条市が行っている小中一貫教育のすばらしさと、これまで積み上げた成果が表れた研修となりました。

今回の研修をもとに、それぞれの学校組織の中で、学級集団や所属する子どもの状態についての深い分析とともに、具体的な改善策が話し合われ、それが日々の教育活動や指導場面で実行されることが大切です。

河村先生は、「ちょっとした教師の働きかけの違いでも、それが1年間に及ぶと、大きな差となって表れる。」とおっしゃっています。2学期以降、教師のちょっとした働きかけの改善とその継続が、学級集団や気になる子どもをよりよい方向へと成長させます。

教育センターでは、hyper-QUを活用した学級集団の診断の方法とその対応策について、今後も継続的に支援を行っていきます。下記のとおり第2回の研修会を予定しています。（申し込みの締め切りは8/31でしたが、受講希望の方は電話でご相談ください。）また、オーダーメイドでの研修も可能ですので、担当までご相談ください。（担当：教育センター指導主事 土佐和久）

【受講者の声】

- ・2学期からの意欲と活力をいただきました。ご講演を聴きながら、自学級の子どもの顔が浮かんできました。笑顔あふれるクラスへと導いていきたいと思えます。
- ・事例検討会の意義がよく分かった。QUは何となくやってみていたのだが、見方がかなり変わった。QUをもとに自分の学級経営をもう一度、何度も見直したい。
- ・QUを活用した学級経営ばかりに目がいていたが、小中一貫教育における、小中両教員における9年間の学びと育ちを保障するものであることが分かった。合同研修（検討会）を設定してみたい。
- ・他校の先生方とお話しすることは、いつも刺激があります。グループで話すことができよかったです。
- ・事例検討をすることで、直接言いつらいことも気軽に言い合える雰囲気ができると思う。QUをしてからの分析がとても大切だと思いました。



<第2回hyper-QU研修会>

hyper-QU結果の分析方法、学級集団の診断とその対応策について研修します。

日時：平成28年9月26日（月）13：30～16：40

講師：魚沼市教育委員会学習指導センター統括指導主事 伊佐 貢一 様

1学期の「生徒指導・学校運営訪問」を終えて

小中一貫教育推進課 指導主事 大西 聡子

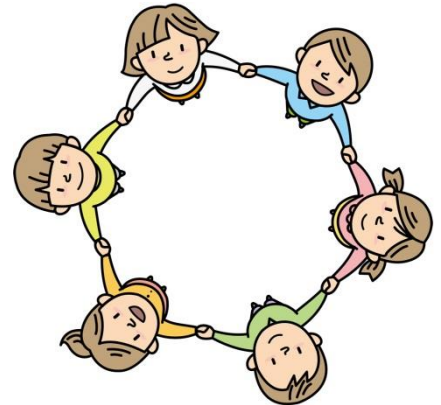
学校を訪問させていただくたびに、笑顔の素敵な子どもたちと熱意あふれる先生方にお会いできることを嬉しく思います。さらに、先生方が授業づくりや学級づくりに熱心に取り組まれ、各校のグランドデザインに示された視点を大切にしながら教壇に立たれている姿勢に胸が熱くなります。

授業づくりでは、主体的・協働的な学び「アクティブ・ラーニング」を重視されている学級が多いと感じました。最近、話し合いという形だけを取り入れた学習になりがちという批判的な言葉を聞くことがありますが、そうではない学級をたくさん拝見しました。子どもたちが学ぶ目的を明確にもち、課題解決に向けた話し合い活動が行われていました。前時までを振り返り、学習課題を先生と子どもたちが共につくりあげ、ペアやグループで互いに意見を交流し合い、全体で考えを共有し深め合う授業を見せていただきました。子どもたちが学級の仲間と課題を解決するために本気になって取り組み、学ぶ楽しさを感じることでできる素晴らしい授業でした。

さらに、次の姿にも感心されました。分からない友達や間違えて答えた友達に温かい言葉をかける子どもたち、分け隔てなく話し合ったり互いに教え合ったりする子どもたちです。授業づくりと同時に、温かい雰囲気の中での学級づくりにも力を入れておられることを感じました。

このほかに、特別支援学級の子どもたちが交流学級で学習する様子を見せていただきました。支援を要する子どもに対して合理的配慮を提供する交流学級の担任の姿に感動しました。ここから、全校体制で特別支援教育を進めておられることが分かります。さらに、一人一人の違いを認め合うことでできる好ましい人間関係づくりを心がけておられることも心に残りました。

さて、2学期がスタートしました。1学期同様、学ぶ楽しさを実感できる授業づくりや温かい学級づくりにより、居心地の良い学級集団の中で子どもたちが成長することを願っています。



【平成28年度「生徒指導・学校運営訪問」一覧表2学期以降】

期日	訪問校	訪問者	期日	訪問校	訪問者
9.29(木)	嵐南小	大西聡子 長谷川洋志	10.17(月)	第三中	熊倉隆司 駒木根康子
9.30(金)	月岡小	本多真人 駒木根康子	10.19(水)	旭小	熊倉隆司 小川弘実
9.30(金)	大崎中	大西聡子 小川弘実	10.31(月)	一ノ木戸小	大西聡子 小川弘実
10.13(木)	第一中	小田貴樹 長谷川洋志	11.16(水)	長沢小	本多真人 長谷川洋志

【深めよう絆スクール集会】

中学校区	期日	会場	中学校区	期日	会場
第一中	11.9(水)	第一中	大崎中	11.25(金)	大崎中
第二中	9.26(月)	第二中	大島中	10.12(水)	大島中
第三中	10.11(火)	第三中	栄中	11.2(水)	栄北小
第四中	11.25(金)	第四中	下田中	11.11(金)	下田中
本成寺中	11.29(火)	本成寺中			

※内容によって「いじめ見逃しゼロスクール集会」と呼ぶなど、集会の名称が異なります。

防災キャンプ in 三条 ～下田中学校区～



今年度の『セイフティアドベンチャー』の概要をお知らせします。

◇目的 児童生徒が、学校教育外の環境(放課後、学校休業日)において被災した場合に、自らの危険を回避できるよう必要な技術や知識を学習させ、「生き抜く力と姿勢」を育む。

◇主催 三条市教育委員会 小中一貫教育推進課

◇期日 8月4日(木)～5日(金) ※酷暑の連日でした。

◇会場 大浦小学校を中心とした各施設

◇参加者 下田中学校区の児童生徒 43名(小4、5、6年及び中3年の希望者)

◆主な内容◆

【水防学習館見学】

・「三条市水防学習館」で水害の記録から水害の実際を調べたり、水圧体験や音と映像による水害の怖さを体感したりしました。(写真①)

【1日目昼食2日目朝食の非常食体験と1日目夕食の避難所食体験】

・非常食(備蓄食料)の試食体験をしました。(写真②)

・洗い物、ゴミ処理、物干しなど、各班協力して後片付けをしました。

【プロジェクトアドベンチャー】

・集団づくりゲームを通してお互いの理解を高めたり仲間と協力したりして、避難所生活を送るための絆づくりをしました。(写真③)

【避難所開設体験(選択プログラム)・避難所閉鎖体験】

・説明の後、各自が「施設・福祉班」「調理班」のいずれかを選択し、2つに分かれて避難所開設体験活動を行いました。

・「施設・福祉班」は、調理をするためのテント設営・火起こしや宿泊環境を整えることをしました。お年寄の身になって洪水時の避難について考えました。(写真④⑤)

・「調理班」は、どのような食材でどのように調理したかを学びながら、炊き出しやサバイバルフードの調理体験をしました。

・2日目早朝に避難所施設を片付け、復元作業を行いました。

【豪雨体験・洪水時の水流体験】

・降雨体験車に乗って豪雨の強さ、激しさを体で感じたり、プールに入って水流をつくりその流れに逆らって歩き水の抵抗の強さを感じたりするなど、洪水時を想定した模擬体験をしました。(写真⑥)

【防災トークセッション(ナイトプログラム)】

・避難所生活の実際や災害を生き抜くための心構えを学びました。にいがた災害ボランティアネットワークの李仁鉄さんのリードの下、群馬大学大学院の金井昌信先生、三条地域振興局健康福祉環境部の土田直美さん、株式会社野村防災の長島あさ子さんを交えて、みんなで防災について語り合いました。(写真⑦)

【救命救急講習会・スキルトレーニング】

・三条市消防本部署員の方から、被災時のけがなどへの応急措置、けが人の搬送方法を学びました。(写真⑧)

閉会式で修了証書が参加児童生徒全員に授与され、2日間の日程が終了しました。高校生ボランティアの皆さんの姿、中学生の参加がよい手本となっていました。「知識の習得」「体験活動」「技術の習得」が見事にかみ合ったキャンプでした。

